

イノシシ等侵入防止柵整備事業説明会を開催します(再掲)

獣類の農作物被害防止対策を推進するため、イノシシ等侵入防止柵を整備する国及び市単の補助事業の事業説明会を下記のとおり開催します。

開催日時；2025年（令和7年）10月30日（木）14時～15時30分

開催場所；こうべアグリパーク(旧農業公園)の大ホール

2026年度（令和8年度）の国及び市単補助事業を希望される集落、農会、営農組合の方は、この説明会に参加することが必須となります。

なお、申込をされていない農会、営農組合等からの要望がありましても、2026年度(令和8年度)事業については取り組めませんので、ご留意いただきますようお願いいたします。

【問合せ先】 庶務ライン

有機フッ素化合物（PFAS）のコメへの影響についてのお知らせ

有機フッ素化合物（PFAS）の国内農畜水産物への影響については、現在、農林水産省によって調査・研究がすすめられています。

このたび、農林水産省より PFAS を含む農業環境からコメ（玄米）への移行・蓄積に関して、ほとんど影響はないという試験研究結果が公表されましたので、お知らせします。

（農林水産省プレスリリースより）

農業環境からコメ（玄米）への移行、蓄積に関する試験研究の結果

環境水の暫定目標値を超える PFOS 及び PFOA が検出されている河川から取水している水田において試験を実施したところ、玄米中の PFOS 及び PFOA 濃度は、定量下限値未満～20ng/kg であった。水田土壌中の PFOS 及び PFOA 濃度を 1 とした場合の玄米中の濃度は、PFOS で 0.005 以下、PFOA で 0.004 以下であり、土壌中の PFOS 及び PFOA は、ほとんど玄米に移行、蓄積しないことがわかった。

【関係機関ホームページ】

農林水産省⇒



環境省 ⇒



神戸市 ⇒
(PFAS に関する
情報全般)



「こうべ再生リン」の安全性についてのお知らせ

神戸市における資源循環の取組みにより、下水汚泥から抽出した「こうべ再生リン」は、こうべハーベスト肥料の原料として使用されています。

「こうべ再生リン」は、下水汚泥を堆肥化したものではなく、汚泥から安全にリンのみを抽出して生成しています。

そのため、PFAS は検出されず（定量下限値未満）、その安全性が確認されています。

〈有機フッ素化合物（PFAS）含有量試験結果〉

試料採取日：2024 年 11 月 21 日

ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）：**不検出**（定量下限値未満）

ペルフルオロオクタン酸（PFOA）：**不検出**（定量下限値未満）

※定量下限値：0.5 $\mu\text{g}/\text{kg}$

※有機フッ素化合物（PFAS）とは（環境省ホームページより）

有機フッ素化合物のうち、ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物を総称して「PFAS」と呼び、その中でも、幅広い用途で使用されてきた PFOS 及び PFOA は、難分解性、高蓄積性、長距離移動性という性質により、国内で規制やリスク管理に関する取り組みが進められています。

神戸市ホームページ ⇒



今後、新たな研究結果等が公表されましたら、お知らせいたします。